解説

AI フラックス法による AITB₁₄-タイプ(T = Li, Na, Mg)化合物の 結晶育成と物理的性質

岡田 繁^{1,*},神津 薫¹,山崎 貴¹,森 孝雄²,湯葢邦夫³,野村明子³, 宍戸統悦³,吉川 彰³,Peter ROGL⁴

1国士舘大学理工学部理工学科, 154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

²物質・材料研究機構 WPI 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点, 305-0044 茨城県つくば市並木 1-1

3 東北大学金属材料研究所, 980-8577 宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1

⁴Institut für Physikalische Chemie der Universität Wien, Währingerstraße 42, A-1090 Wien, Austria

Crystal Growth and Physical Properties of Al TB_{14} -Type (T = Li, Na, Mg) Compounds by Al-Self Flux

Shigeru OKADA^{1,*}, Kaoru KOUZU¹, Takashi YAMASAKI¹, Takao MORI², Kunio YUBUTA³, Akiko NOMURA³, Toetsu SHISHIDO³, Akira YOSHIKAWA³, Peter ROGL⁴

¹Faculty of Science and Engineering, Kokushikan University, 4-28-1 Setagaya, Setagaya-ku, Tokyo 154-8515 ²Materials Nanoarchitechtonics Center, National Institute for Materials Science, 1-1 Namiki, Tsukuba, Ibaraki 305-0044 ³Institute for Materials Research, Tohoku University, 2-1-1 Katahira, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-8577 ⁴Institut für Physikalische Chemie der Universität Wien, Währingerstraβe 42, A-1090 Wien, Austria

Received March 26, 2018; E-mail: sokada@kokushikan.ac.jp

We report the experimental conditions in attempt for growing crystals of Al7B₁₄ (AlMgB₁₄-type, orthorhombic, space group *Imma*) (T = Li, Na, K, Mg) from high-temperature Al solutions using Li, Na, K or Mg salts, and crystalline B powders. The Al7B₁₄ compound crystals were grown for T = Li, Na, Mg from the Al solutions including LiF or Li₂B₄O₇, NaF or Na₂B₄O₇, and MgF₂, respectively, with B powders. The conditions to obtain relatively large crystals were found, including the soaking temperature of 1673 K, the soaking time of 1 h, and the cooling rate of 50 K \cdot h^{-1}. The obtained AlLiB₁₄ and AlNaB₁₄ crystals have well-developed {010} faces of a plate-like or cube-like crystals, and were reddish black with metallic luster, while the obtained AlMgB₁₄ crystals were 4.3 mm × 1.7 mm for those obtained from Li₂B₄O₇ and B as starting materials. However, no AlKB₁₄ crystals are in the range of 23(1) to 27(3) GPa. The magnetic susceptibility of Al7B₁₄ shows a monotonically increase with decreasing the temperature, *i.e.* a paramagnetic behavior for all the kinds of T = Li, Na, Mg, indicative of existence of some impurities or defects contributing to the paramagnetic response, whose amounts in the crystals may be below the detection limits by chemical analyses and XRD measurements.

Key Words: AlTB14-Type (T = Li, Na, Mg) Compound, Al-Self Flux Method, Crystal Morphology, Lattice Constant, Micro-Vickers Hardness, Magnetic Susceptibility

1. はじめに

Al-*T*-B 三成分系(T = Li, Na, Mg)の高ホウ化物には, Al*TB*₁₄(AlMgB₁₄-タイプ, T = Li, Na, Mg; *Imma*)と AlMgB₂₂(γ -AlB₁₂-タイプ, *P*₂₁₂₁₂₁)の二種類が知られている [1-3]。これらの高ホウ化物は, B₁₂ 正 20 面体を内包し,高温 構造材料,熱中性子吸収材料,耐熱性半導体材料,高硬度材 料,熱電変換素子,エネルギー変換材料や磁性材料などの応 用に興味がもたれている[4,5]。AlMgB₁₄-タイプの結晶構造を Fig.1 に示す。AlMgB₁₄は,NaBB₁₄[6]と同様に,B₁₂ 正 20 面 体と単独ホウ素原子が基本的な構造を有しているが,その比 較的大きな隙間に Li, Na 或いは Mg 原子が入る構造である。 このように Al*T*B₁₄はユニークな化合物であるが,結晶合成 を含めて十分に研究されていず,物理化学的な性質の研究例 も少ない。著者らは,金属 Li, Mg および Na 塩を用いて Al*T*B₁₄(T = Li, Na, Mg)結晶を育成し,構造解析を行った[13,5]。この場合,高温で金属 Li や Mg は蒸気圧が高いために, AlLiB₁₄ と AlMgB₁₄ 結晶を得るための最適合成条件を探すの にはきわめて困難であった。そのような背景で,著者らは, 同フラックス法を用いて,出発原料として Li 塩或いは Mg 塩 とホウ素粉末から Al7B₁₄(T = Li, Mg)の単結晶を育成[7-10] することができた。本報告では Al 自己フラックス法を用い て,出発原料として Li, Na, K 或いは Mg 塩と B 粉末から Al7B₁₄(T = Li, Na, K, Mg)の結晶育成と比較的大きな結晶 を得るための条件を検討した。また,先の研究[9]から配合比 B/T を 6.0 より増やすと α -AlB₁₂或いは β -AlB₁₂結晶が優先的 に生成し,目的の結晶合成が得られ難くなることより,本実 験では配合比 B/T を 1.0~4.0 の範囲内で行った。ここでアル カリ塩或いは Mg 塩を用いたのは,金属塩では空気中での試 料調製が可能で,グローブボックス中で操作を行う必要がな いことと,金属塩とホウ素が高温で Al 融液との溶解度が比 較的高いことを考えて実験を行った[11]。しかし、同フラックスを用いて、カリウム塩と B との高温での反応からは AlKB14結晶は得られず、 α -AlB12と β -AlB12結晶の混合相として生成した。得られた AlTB14(T=Li, Na, Mg)化合物は結晶 学データー、結晶形態と大きさを調べた。また、得られた結 晶は硬度と磁化率の性質を調べたので報告する。



Fig.1 Crystal structure of $AIMgB_{14}$ -type compound: three-dimensional perspective view[8].

2. 実験方法

出発原料として Li, Na, K 或いは Mg の塩類(LiF, Li₂B₄O₇, LiBO₂, LiCl, LiNO₃, Na₂B₄O₇, NaF, Na₂CO₃, NaCl, NaI, K2B4O7, KF, K2CO3, KCl, MgF2, MgCO3, MgCl2)(純度 98~99.9 %)と結晶性 B(純度 99 %), 自己フラ ックスとしてボタン状の金属 Al(純度 99.99 %)を用いた (Table 1)。これら原料を配合比 B/T = 1.0~4.0 の範囲で乾式 混合した。原料とAIフラックス量を重量比で1:15~20に調 製した。混合した原料を Al2O3 ルツボ中に充填し、これを Ar ガス雰囲気中の電気炉に挿入した。加熱速度 300 K·h⁻¹ で行 い, 所定の加熱温度 1673 K で, 1 時間保持し, 1273 K まで 徐冷速度 50 K·h⁻¹ で徐冷した。それ以後は室温まで炉内放冷 した。冷却後、Al フラックスを希塩酸で溶解処理し、育成し た結晶を純水で洗浄した。結晶の選別は実体顕微鏡下で行っ た。得られた結晶は、XRD(Rigaku, Rent-2000)で相の同定と 格子定数を測定し, SEM と実体顕微鏡で結晶の大きさと形 態を観察し、EDS (Horiba Co, EMAX-2770) で不純物と組成

Table 1	Growth	conditions	of	AI <i>T</i> B ₁₄	crystals	obtained	from
metal salts and boron powders at starting materials.							

Metal salts	B/T (atomic ratios)	Phases identified
Li ₂ B ₄ O ₇	2.0, 3.0, 4.0	AILiB ₁₄
LiF	2.0, 3.0, 4.0	AILiB ₁₄
LiCI	2.0	α -AIB ₁₂ , β -AIB ₁₂
LiNO ₃	2.0	α -AIB ₁₂ , β -AIB ₁₂
LiBO ₂	2.0	α -AIB ₁₂ , β -AIB ₁₂
NaF	20 30 40	AINARY GAIRYO GAIRYO
Na ₂ B ₂ O ₂	10 20 40	AlNaBu g-AlBu B-AlBu
Na ₂ CO ₂	2.0	a-AIB ₄₂ B-AIB ₄₂
NaCl	2.0	α -AlB ₁₂ , β -AlB ₁₂
Nal	2040	α -AlB ₁₂ , β -AlB ₁₂
Hai	2.0, 1.0	
$K_2B_4O_7$	2.0, 4.0	α -AIB ₁₂ , β -AIB ₁₂
KF	2.0, 4.0	α -AlB ₁₂ , β -AlB ₁₂
K ₂ CO ₃	2.0, 4.0	α -AlB ₁₂ , β -AlB ₁₂
KCI	2.0, 4.0	α -AIB ₁₂ , β -AIB ₁₂
MaEa	20 30 40	AlMaB
MaCO	2.0, 0.0, 4.0	α -AIB ₄₀ B-AIB ₄₀
MaCl ₂	2.0	α -AIB ₁₂ , β -AIB ₁₂

比の変化を調べた。また,得られた結晶は,ビッカース微小 硬度計を用いて室温で硬度測定(荷重 2.94 N,荷重時間 15~ 20 秒間), SQUID マグネットメーターを用いて 1 kG の磁場 で 2~300 K までの範囲内で磁化率測定を行った。

3. 結果と考察

Al 自己フラックス中でリチウム塩と B を用いて AlLiB₁₄の 結晶育成を行った。Li 塩として LiF, Li₂B₄O₇, LiBO₂, LiCl, LiNO3 を用いた。それらの結果を纏めたのが Table 1 である。 これらから LiF 或いは Li2B4O7 と B との反応から AlLiB14 結 晶が得られたが、それ以外の Li 塩では AlLiB14結晶は得られ なかった。LiF から得られた AlLiB14結晶の写真を Fig.2 に示 す。これから AlLiB14 は赤黒色の金属的光沢で {010} 面を有す る厚みのある板状或いは立方体状結晶として育成した。この 結晶は、先に報告した金属 Li と B から育成した AlLiB₁₄と同 様な結晶形態であった[1]。また, Li2B4O7 と B の反応から得 られた AlLiB14 結晶も同様な結晶形態を有し、厚みのある板 状結晶で,最大の大きさは 4.3 mm × 1.7 mm であった。一方, LiBO2, LiCl 或いは LiNO3 と B との反応からは, AlLiB14結晶 が合成できず、2.5 mm 程度の黒色で厚みのある板状の α-AlB₁₂[Fig.3(a)]と琥珀色で半透明体を有する β-AlB₁₂-タイプ [Fig.3(b)][12]結晶が混合相として得られた。この原因は高 温で Al フラックスと LiBO2, LiCl 或いは LiNO3 が反応しな かったためと思われる。



Fig.2 Photographs for stereoscopic microscopy of AlLiB₁₄ crystals obtained by LiF and B in the Al-self flux at soaking temperature 1673 K for soaking time 1 h.



Fig.3 Photographs for stereoscopic microscopy of α -AlB₁₂ and β -AlB₁₂-type crystals obtained by LiBO₂ and B as starting materials at soaking temperature 1673 K for soaking time 1 h.

同フラックス中でナトリウム塩と B を用いて AlNaB₁₄の結 晶育成を行った。Na 塩として Na₂B₄O₇, NaF, Na₂CO₃, NaCl, NaI を用いた。それらの結果を纏めたのが Table 1 である。こ れらから Na₂B₄O₇或いは NaF と B との反応から AlNaB₁₄結晶 が育成できた。ただし、これらの Na 塩からは AlNaB₁₄ 以外 に α -AlB₁₂ と β -AlB₁₂結晶が混合相として得られた。Na₂B₄O₇ から得られた AlNaB₁₄ 結晶は、AlLiB₁₄ の場合と同様な傾向 で、金属的光沢の赤黒色で {010} 面を有する厚みのある板状 或いは立方体状結晶 (Fig.4) として生成したが、その最大の大 きさは 2.6 mm × 1.1 mm であった。また、NaF から得られた AlNaB₁₄ は黒色の金属的光沢を有する多面体状結晶 (Fig.5) で 得られた。これら以外の Na 塩では Li 塩の場合と同様に α -AlB₁₂ と β -AlB₁₂結晶の混合相として得られた。



Plate-like crystals

Cube-like crystals

Fig.4 Photographs for stereoscopic microscopy AlNaB₁₄ crystal obtained by $Na_2B_4O_7$ and B as starting materials at soaking temperature 1673 K for soaking time 1 h.



Polyhedral crystal

Fig.5 SEM photograph of AlNaB₁₄ crystal obtained by NaF and B as starting materials at soaking temperature 1673 K for soaking time 1 h.

同フラックスを用いて、カリウム塩(K₂B₄O₇, KF, K₂CO₃, KCl)とBとの反応からAlKB14結晶の育成を行った。その結 果, どの K 塩を用いても AlKB14結晶が得られず, α-AlB12と β-AlB₁₂結晶が混合相として生成していた(Table 1)。この原 因は、カリウム塩が高温で Al 融液中に溶解しないか或いは Bと反応しなかったためと考えられる。または原子半径が K 元素では 0.231 nm で, Li では 0.152 nm で, Na では 0.186 nm で、Mg では 0.160 nm であり、K 元素の原子半径[14]の方が Li, Na 或いは Mg 元素よりも 1.24~1.52 倍ほど大きいために AlKB14結晶が生成しなかったことも考えられる。イオン半径 では AlTB₁₄結晶中の Tは6 配位において Li(+1; 0.076 nm), Na(+1;0.102 nm), Mg(+2;0.072 nm)[14]で、それぞれの元 素のイオン半径が比較的近い値である。これらから AlTB14 結晶の生成が可能である。一方, K 元素のイオン半径は6 配 位(+1;0.138 nm)で、Li(+1)、Na(+1) 或いは Mg(+2)のイオ ン半径よりも 1.35~1.92 倍ほど大きくなっている。従って, MgAlB14-タイプ構造中にはK元素が置換することが困難であ ると推察できる。

更に, 同フラックスを用いて, マグネシウム塩 (MgF2, MgCO3, MgCl2)と B との反応から AlMgB14 結晶の育成を行った。MgCO3 と MgCl2 からは AlMgB14 結晶は得られず, α-AlB12 と β-AlB12 結晶の混合相として生成していた。AlMgB14 結晶は MgF2 と B との反応から育成できることがわかった (Table 1)。AlMgB14 結晶の写真を Fig.6 に示す。AlMgB14 結晶は最大 2.2 mm × 2.0 mm の結晶表面の滑らかな金属的な光 沢を有し多面体状で黒色を呈していた。この場合, 著者らは,



Polyhedral crystals

Fig.6 Photograph for stereoscopic microscopy of AlMgB₁₄ crystals obtained by MgF_2 and B as starting materials at soaking temperature 1673 K for soaking time 1 h.

同フラックスを用いて、出発原料として金属 Mg と B の反応 から AlMgB14 と AlMgB22 結晶の混合相として育成している [3]。しかし、本実験では AlMgB22 を得ることができなかっ た。この原因は、Al フラックス中に MgF2の溶解度が小さい か或いは MgF2が B との反応性が低いためであると推察でき る。以上のように、金属フッ化物を用いた場合では TF(T= Li, Na) 或いは MgF2は, 高温度で Al 融液と反応(3TF + Al → $AlF_3 + 3T^+$ 或いは $3MgF_2 + 2Al \rightarrow 2AlF_3 + 3Mg^{2+}$)し, 金属イ オン或いは金属元素または Al との合金が生成する。これが Al 融液中に溶解している B と反応し, 徐冷中で AlTB14 結晶 が育成したと思われる。このように、TF または MgF2 は Al 融液と反応し、目的の高ホウ化物が育成したものと推測でき る。得られた AlTB14結晶の XRD パターンを Fig.7 と Fig.8 に 示す。Fig.7 では、LiF と B との反応で得られた AlLiB14 およ び NaFと Bの反応から得られた AlNaB14の XRD パターンで ある。AlLiB14と AlNaB14の XRD パターンは、 Mg0.78Al0.75B14 (ICDD カード No.39-0459) (a) 或いは α-AlB₁₂(ICDD カード No.12-0640) (b) と β-AlB₁₂(ICDD カード No.12-0639) (c) とー 緒に記載した。この結果から AlLiB14結晶の XRD パターンは Mg0.78Al0.75B14の回折ピークの位置に近似している。AlNaB14 結晶の回折パターンは、Mg0.78Al0.75B14の大きな回折ピークと 比較的よく類似しているが, α-AlB12 と β-AlB12 を含んでいた。



Fig.7 XRD patterns of AlLiB₁₄ (from LiF) and AlNaB₁₄ (from NaF) crystals. (a): $Mg_{0.78}AI_{0.75}B_{14}$ (ICDD card, No.39-0459), (b): α -AlB₁₂ (ICDD card, No.12-0640), (c): β -AlB₁₂ (ICDD card, No.12-0639). O: Al7B₁₄, Δ : α -AlB₁₂, \blacktriangle : β -AlB₁₂

Compounds	Motal salts	Lattice constants (nm)			$V(nm^3)$	Pof	
(AI <i>T</i> B ₁₄)	Metal Saits	а	b	С	v (iiiii)	INCI.	
NaBB ₁₄	-	0.5847	0.8415	1.0298	0.5067	(6)	
AILiB ₁₄	LiF	0.5841(5)	0.8149(7)	1.0361(4)	0.4932(6)	this work	
	Li ₂ B ₄ O ₇	0.5838(1)	0.8144(1)	1.0372(2)	0.4931(2)	this work	
	LiF	0.5847(1)	0.8143(1)	1.0354(1)	0.4930(1)	(7)	
	Li	0.58469(9)	0.81429(8)	1.03542(6)	0.49297(8)	(2)	
AINaB ₁₄	NaF	0.5851(2)	0.8243(3)	1.0455(4)	0.5042(3)	this work	
	Na₂B₄O ₇	0.5849(3)	0.8238(5)	1.0459(6)	0.5040(5)	this work	
	Na₂B₄O ₇	0.5844(1)	0.8231(1)	1.0465(1)	0.5034(1)	(8, 9)	
AIMgB ₁₄	MgF ₂	0.5845(2)	0.8114(2)	1.0330(4)	0.4899(3)	this work	
	Mg	0.58450(2)	0.81137(7)	1.03298(4)	0.4899(1)	(3)	

Table 2 Lattice constants of AITB₁₄ crystals.

これは AlNaB14結晶を選別の時に α-AlB12と β-AlB12結晶を含 んだものと思われる。Fig.8 では MgF2と Bの反応から得られ た AlMgB14 の回折パターンを示す。これは Mg0.78Al0.75B14 (ICDD カード No.39-0459)の回折パターンと類似であった。 また、それら以外の金属塩では AlTB14 結晶が合成できなか ったが α-AlB12 と β-AlB12結晶の混合相として得られた。得ら れた α-AlB₁₂ と β -AlB₁₂ は ICDD カードの XRD パターン [Fig.7(b)と Fig.7(c)]と類似であった。本実験で得られた AlTB14結晶の格子定数は AlTB14の文献値および NaBB14[6]と 一緒に Table 2 に示す。これらから本実験で得られた AlTB14 の格子定数は文献値と類似している。また、格子定数から求 めた AlNaB14の単位格子容積は、AlLiB14や AlMgB14よりも 大きくなっていた。これは Na の原子半径(0.186 nm)とイオ ン半径[14][(+1), 0.102 nm]の方が, Li[0.152 nm; (+1), 0.072 nm)や Mg[0.160 nm; (+2), 0.072 nm]の原子半径とイ オン半径よりも大きいことに関係している。また, AlTB14と NaBB14の単位格子容積を比較した場合, AlTB14 よりも NaBB14の方が大きな値であった。これは Na の原子半径とイ オン半径の方が Al の原子半径(0.143 nm)とイオン半径[(+3), 0.054 nm]よりも大きいことに関係していると思われる。EDS 測定から出発原料に用いたアルカリ塩或いは Mg 塩の陰イオ ン(F, C 或いは O)の元素は AlTB₁₄結晶中には痕跡程度であ った。また、AlとTとの組成比には大きな変化が見られなか った。従って、AlTB14結晶中には F, C 或いは O 元素を含ま れず,それらと化合物を形成することはなかった。更に AlTB₁₄結晶中の Al と T との組成比は著者らが報告した分析 値[1,3,8]に近い値であることが推察できる。



Fig.8 XRD patterns of AIMgB₁₄ compound (a) obtained by MgF₂ and boron in the AI flux, and Mg_{0.78}AI_{0.75}B₁₄ (ICDD card No.39-0459) (b).

物理的な性質は硬度と磁化率の測定を行った。AI7B14 結晶のビッカース微小硬度の結果を文献値[3,5,7-9,13]と一緒に

Table 3 に示す。AlTB14の硬度は、Li2B4O7 と LiF から得られ た AlLiB₁₄では 23(1)と 24(1) GPa, NaF と Na₂B₄O₇から得ら れた AlNaB14 では 25(1)と 27(3) GPa で、MgF2から得られた AlMgB14では 26(1) GPa であった。これらから AlTB14は同程 度の硬度で文献値とも良く一致している。また、AlTB14 化合 物は, cBN(46 GPa)や B4C(41 GPa)[5]よりも硬度が小さい値 であるが、高ホウ化物のうちでも比較的高い硬度値を有する 材料であることがわかった。更に、AlTB14 化合物は低温度で 磁化率測定を行った。それらの測定結果を Fig.9, Fig.10 と Fig.11 に示す。これらの結果から、AlTB14 は低温度では超伝 導特性を示さなかった。また、室温における磁化率[7,12,13] i, AlLiB₁₄ cit-4.4 × 10⁻⁷ emu·g⁻¹ c, AlNaB₁₄ cit-4.1 × 10⁻⁷ emu·g⁻¹で反磁性を示しているが、AlMgB14 では 1.0 × 10-6 emu·g⁻¹であった。AlTB14化合物は、室温から2Kまでの温度 依存性では、それら磁化率の値がやや大きくなり、常磁的な 振る舞いを呈することがわかった。この原因は、何れも AlTB14 結晶に含まれている不純物の効果或いは結晶の欠陥に よるためであることが推察できる。このような現象は, REB₅₀(RE = 希土類元素)[15]や TbB₂₅[16]のように B₁₂正 20 面 体を内包する高ホウ化物でも同様に観察されている。

Table 3 Micro-Vickers hardness of AITB₁₄ crystals.

Compounds (Al <i>T</i> B ₁₄)	Hardne Metal salts	Ref.	
AILiB ₁₄	Li₂B₄O7	23(1)	this work
	LiF	24(1)	this work
	Li, LiF	20(1)-29(1)	(5, 7, 13)
AlNaB ₁₄	NaF	25(1)	this work
	Na₂B₄O ₇	27(3)	this work
	Na₂B₄O ₇	23(1)-28(1)	(8, 9)
AIMgB ₁₄	MgF ₂	26(1)	this work
	Mg	24(1)–28(1)	(3, 13)



Fig.9 Temperature dependence of the magnetic susceptibility of AlLiB $_{14}$ crystal[13].



Fig.10 Temperature dependence of the magnetic susceptibility of AINaB₁₄ crystal[7,12].



Fig.11 Temperature dependence of the magnetic susceptibility of $AIMgB_{14}$ [13].

4. まとめ

Al 自己フラックス中で、出発原料として Li, Na, K, Mg の塩類と B 粉末を用いて、所定の加熱温度まで 300 K·h⁻¹ で 昇温し、加熱温度 1673 K, 加熱時間 1 h 保持, 徐冷速度 50 K·h⁻¹の条件で、Al7B₁₄(T = Li, Na, K, Mg)の結晶育成を行 った。その結果、Al-T-B系(T = Li, Na, Mg)では、出発原料 を LiF, Li₂B₄O₇, NaF, Na₂B₄O₇, MgF₂ と B を用いた場合に Al7B₁₄(T = Li, Na, Mg)結晶が育成できた。ただし、Al-K-B 系では、どのアルカリ塩を用いても AlKB₁₄結晶を得ること ができなかった。また、Al7B₁₄結晶が得られないときは α-AlB₁₂ と β-AlB₁₂結晶が混合相として生成した。結晶形態は、 AlLiB₁₄ と AlNaB₁₄では赤黒色で{010}面を有する厚みのある 板状と立方体状および多面体状結晶で、最大の大きさは 4.3 mm × 1.7 mm であった。AlMgB₁₄では黒色の多面体状結晶で、 最大 2.2 mm × 2.0 mm で得られた。 $AITB_{14}(T = Li, Na, Mg)$ 結晶の格子定数は文献値と良く一致していた。 $AITB_{14}$ 結晶の 硬度と磁化率は,硬度では 23(1)~27(3) GPa で,低温度での 磁化率では常磁的な振る舞いを呈していた。

謝辞

実験では国士舘大学理工学部の Hamed Mofidi Tabatabaei 博士と西原公先生,神奈川大学工学部技術職員の今井洋子氏, ウィーン大学物理化学研究所の Gerda Rogl 博士のご協力を得ました。ここに謝辞を表します。

References

- I. Higashi, M. Kobayashi, Y. Takahashi, S. Okada, K. Hamano, J. Cryst. Growth, 1990, 99, 998.
- 2) I. Higashi, M. Kobayashi, S. Okada, K. Hamano, T. Lundström, J. Cryst. Growth, **1993**, 128, 1113.
- S. Okada, K. Kudou, T. Mori, T. Shishido, I. Higashi, N. Kamegashira, K. Nakajima, T. Lundström, *Mater. Sci. Forum*, 2004, 449-452, 365.
- 4) V. I. Matkovich (Ed.), *Boron and Refractory Borides*, Springer-Verlag, **1977**, p.439.
- 5) 高木研一他,ホウ素・ホウ化物および関連物質の基礎と 応用、シーエムシー出版、2008、p.151.
- R. Naslain, A. Guette, P. Hagenmuller, J. Less-Common Met., 1976, 47, 1.
- K. Kudou, S. Okada, T. Mori, K. Iizumi, T. Shishido, T. Tanaka, I. Higashi, K. Nakajima, P. Rogl, Y. B. Andersson, T. Lundström, *Jpn. J. Appl. Phys.*, 2002, *41*, L928.
- S. Okada, T. Tanaka, A. Sato, T. Shishido, K. Kudou, K. Nakajima, T. Lundström, J. Alloys Compd., 2005, 395, 231.
- 9) S. Okada, T. Mori, K. Kudou, T. Tanaka, T. Shishido, T. Lundström, *J. Euro. Ceram. Soc.*, **2006**, *26*, 631.
- S. Okada, K. Kudou, T. Shishido, K. Yubuta, T. Mori, J. Solid State Phenomena, 2011, 170, 150.
- 11) D. R. Lide (ed.), CRC Handbook of Chemistry and Physics 76th Edition, 1995-1996, pp.4-37.
- 12) I. Higashi, T. Ito, J. Less-Common Met., 1983, 92, 239.
- S. Okada, T. Shishido, T. Mori, K. Iizumi, K. Kudou, K. Nakajima, J. Alloys Compd., 2008, 458, 297.
- 14) 日本セラミックス協会編, セラミック工学ハンドブック (第2版), 技報堂出版, 2002, p.683.
- 15) T. Mori, T. Tanaka, J. Phys. Soc. Jpn., 1999, 68, 2033.
- 16) T. Mori, A. Leithe-Jasper, Phys. Rev. B, 2002, 66, 214419.